

# 日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史概論	明治思想史概説	2	岡安 儀之	後期 火曜日 2 講時	
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	前期 火曜日 3 講時	
日本思想史基礎講読	近代史料を読む	2	岡安 儀之	前期 金曜日 2 講時	
日本思想史基礎講読	近世史料を読む	2	片岡 龍	後期 火曜日 5 講時	
日本思想史各論	「地域」と文化思想史	2	片岡 龍	前期 月曜日 3 講時	
日本思想史各論	「民族 (Ethnicity)」と比較思想史	2	片岡 龍	後期 火曜日 3 講時	
日本思想史各論	若さと老いの日本思想史	2	引野 亨輔	後期 月曜日 4 講時	
日本思想史各論	日本中世の思想・宗教・文化	2	原 克昭	前期集中 その他 連講	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 I	2	引野 亨輔 片岡 龍	前期 水曜日 3 講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 II	2	引野 亨輔 片岡 龍	後期 水曜日 3 講時	

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：岡安 儀之

コード：LB42201 科目ナンバリング：LHM-PHI201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明治思想史概説

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Meiji Thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、明治期を代表する思想家を取り上げ、明治思想史を概説する。時代の転換期に明治知識人たちが向き合った思想的問題について、文献史料を紹介しながら説明していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, we will take up the thinkers who represent the Meiji era and outline the history of Meiji thought. I will explain the ideological problems that Meiji intellectuals faced at the turning point of the times, while introducing historical documents.

5. 学習の到達目標：

講義で取り上げた思想や歴史的背景を文献史料に基づいて説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Be able to explain the ideas and historical backgrounds taken up in the lecture based on historical documents.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 福澤諭吉の思想①
3. 福澤諭吉の思想②
4. 植木枝盛の思想
5. 中江兆民の思想①
6. 中江兆民の思想②
7. 徳富蘇峰の思想①
8. 徳富蘇峰の思想②
9. 政教社の思想
10. 陸羯南の思想
11. 内村鑑三の思想①
12. 内村鑑三の思想②
13. 平民社の思想①
14. 平民社の思想②
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [70%]

平常点 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。

参考書：佐藤弘夫・平山洋編集委員代表『概説 日本思想史 [増補版]』（ミネルヴァ書房、2020 年）、長妻三佐雄・植村和秀・昆野伸幸・望月詩史編著『ハンドブック近代日本政治思想史』（ミネルヴァ書房、2021 年）

他は、授業時に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で配布されたプリントや参考書を読んで復習し、自主的に学習を進めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB32301 科目ナンバリング：LHM-PHI201J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Japanese Philosophy

3. 授業の目的と概要：日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（2～3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The lecture focuses on topics that attract interest, such as what is Japan, what is thought (thinking), and what is history, while taking up several topics in the history of Japanese thought.

5. 学習の到達目標：

日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal is to train students to think about topics such as what is Japan, what is thought, and what is history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1

第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2

第3回：丸山眞男「日本の思想」

第4回：加藤周一「雑種文化」

第5回：加藤周一、幽霊と語る

第6回：加藤周一『日本文学史序説』

第7回：原爆と日本思想史

第8回：戦後知識人の限界と課題

第9回：沖縄から考える（阿波根昌鴻1）

第10回：平和と生命（阿波根昌鴻2）

第11回：思想と運動

第12回：天皇をめぐる問題1（戦争責任）

第13回：天皇をめぐる問題2（「象徴」）

第14回：天皇をめぐる問題3（生前退位）

第15回：東北から考える（安藤昌益ほか）

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：プリント配布

参考書：E.H. ノーマン 『クリオの顔：歴史随想集』（岩波文庫）

10. 授業時間外学習：小レポート（2～3回）の準備を中心に、教科書の指定箇所を学習する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：岡安 儀之

コード：LB35201 科目ナンバリング：LHM-PHI208J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代史料を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Historical Materials of Modern Period

3. 授業の目的と概要：明治期の著名な知識人の文献史料を読み、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、福澤諭吉 (1835～1901)、福地源一郎 (1841～1906)、中江兆民 (1847～1901)、陸羯南 (1857～1907)、徳富蘇峰 (1863～1957) らの史料を読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read the historical materials of famous intellectuals in the Meiji era and acquire basic reading comprehension skills. Specifically, we read historical materials such as Yukichi Fukuzawa (1835-1901), Genichiro Fukuchi (1841-1906), Chomin Nakae (1847-1901), Kuga Katsunan (1857-1907), and Soho Tokutomi (1863-1957).

5. 学習の到達目標：

日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the knowledge and skills that are essential for accurately reading historical materials used in the study of Japanese intellectual history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 福澤諭吉史料①：報告と討論

3. 福澤諭吉史料②：報告と討論

4. 福澤諭吉史料③：報告と討論

5. 福地源一郎史料①：報告と討論

6. 福地源一郎史料②：報告と討論

7. 福地源一郎史料③：報告と討論

8. 中江兆民史料①：報告と討論

9. 中江兆民史料②：報告と討論

10. 中江兆民史料③：報告と討論

11. 陸羯南史料①：報告と討論

12. 陸羯南史料②：報告と討論

13. 徳富蘇峰史料①：報告と討論

14. 徳富蘇峰史料②：報告と討論

15. 徳富蘇峰史料③：報告と討論

8. 成績評価方法：

平常点 (報告内容・質疑応答への積極的参加の有無) [70%]

出席点 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB41301 科目ナンバリング：LHM-PHI208J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史料を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading Historical Materials of Pre-modern Period

3. 授業の目的と概要：近世の人形浄瑠璃文楽の台本を読み、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、18 世紀に成立した『菅原伝授手習鑑』等の史料を読む。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Read the historical texts of "Bunraku puppet show" and acquire basic reading comprehension skills. Specifically, we read historical texts such as "Sugawara and the secrets of calligraphy".

5. 学習の到達目標：

日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Acquire the knowledge and skills that are essential for accurately reading historical materials used in the study of Japanese intellectual history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) オリエンテーション

2) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

3) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

4) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

5) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

6) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

7) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

8) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

9) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

10) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

11) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

12) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

13) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

14) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

15) 報告と質疑応答、鑑賞と対話

8. 成績評価方法：

平常点（報告内容・質疑応答・鑑賞・対話への積極的参加の有無）[70%]

出席点 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：授業時に配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB51302 科目ナンバリング：LHM-PHI301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「地域」と文化思想史
2. Course Title (授業題目)：“Region” and history of cultural thought
3. 授業の目的と概要：日本思想史を「地域」の観点から再考することを目的とし、テキスト（実学資料研究会編『実学史研究』I～XIからセレクト）を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of “Region”, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.
5. 学習の到達目標：  
「地域」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to share the problem of “Region”, and to develop the ability to set a research topics across specialties.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表はテキスト批評を主眼とする。  
  
第1回：ガイダンス  
第2回：「地域」とはなにか  
第3回：地域個性と実学（末中哲夫）  
第4回：近世本草学と国産薬種（宗田一）  
第5回：読書室物産会について（遠藤正治）  
第6回：中国庶民資料ジャンルについての覚書（斯波義信）  
第7回：「南部盲暦」について（岡田芳朗）  
第8回：十八・十九世紀のヨーロッパ社会の構造と医療（石田純郎）  
第9回：生活思想としての実学（藤原暹）  
第10回：学としての朝鮮実学の形成について（イム・ジョンヒョク）  
第11回：デューイ思想移入の初期（埜上衛）  
第12回：信濃蘭学の展開状況（青木歳幸）  
第13回：三河山間部の初期古義堂門人について（田崎哲郎）  
第14回：幕末期蝦夷鉾山の開発調査におけるお雇い技術者たち（本田敏雄）  
第15回：天保期の加賀藩における「実学」と経世済民（八木清治）  
※第3～15回のテキストは『実学史研究』I～XIからの例示  
定期試験：なし
8. 成績評価方法：  
平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%
9. 教科書および参考書：  
授業中に適宜資料を配布します。
10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。
11. 実務・実践的授業/Practical business：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB62302 科目ナンバリング：LHM-PHI301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「民族 (Ethnicity)」と比較思想史
2. Course Title (授業題目)：“Ethnicity” and history of comparative thought
3. 授業の目的と概要：日本思想史を「民族 (Ethnicity)」の観点から再考することを目的とし、テキスト (A：ヨーゼフ・クラインナー編『日本とはなにか ー日本民族学の二〇世紀』、B：同編『日本民族の戦前と戦後 ー岡正雄と日本民族学の草分け』) を精読した発表をもとに、討論をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this study is to reconsider the history of Japanese Philosophy from the perspective of “Ethnicity”, and to raise the methodological awareness of the history of thought through discussions based on presentations that carefully read the two texts.
5. 学習の到達目標：  
「民族 (Ethnicity)」の問題を共有し、専門を横断して研究領域を開拓する能力を養成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to share the problem of “Ethnicity”, and to develop the ability to set a research topics across specialties.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
授業は基本的に発表・討論形式で進める。発表は研究計画の作成を主眼とする。  
  
第1回：ガイダンス  
第2回：民族とネイションについて  
第3回：A 鳥居龍三①  
第4回：A 鳥居龍三②  
第5回：A 澁澤敬三  
第6回：B 岡正雄①  
第7回：B 岡正雄②  
第8回：B 岡正雄③  
第9回：A 梅棹忠夫①  
第10回：A 梅棹忠夫②  
第11回：A 金関丈夫  
第12回：A 佐々木高明  
第13回：B 外国からみた日本民族学と岡正雄①  
第14回：B 外国からみた日本民族学と岡正雄②  
第15回：B 日本民俗学、そして沖縄のアイデンティティー  
定期試験：なし
8. 成績評価方法：  
平常点 70% (出席 30%、発表・討論 40%)、レポート 30%
9. 教科書および参考書：  
授業中に適宜資料を配布します。
10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。
11. 実務・実践的授業/Practical business：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB61401 科目ナンバリング：LHM-PHI301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：若さと老いの日本思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought about Youth and Old Age

3. 授業の目的と概要：我々は、若者といえば短気な存在であると捉えたり、老人といえば頑固な存在であると捉えたり、若さや老いに固定的な印象を抱きがちである。しかし、そのような捉え方は、時代や地域を超越して不変的なものではない。そこで、本授業では、受講生たちに江戸時代に記された若さや老いに関する諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する物の見方への理解を深めてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We tend to have a fixed impression of youth and old age, such as thinking that young people are impatient and old people are stubborn. However, such thinking is not immutable over time and region. In this course, students will read some writings about youth and old age written in the Edo period, and deepen their understanding of the perspectives of things that change with the times and regions.

5. 学習の到達目標：

本授業の到達目標は、江戸時代に記された諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to acquire a flexible method of ideological analysis that is not bound by stereotypes through reading comprehension of various documents written in the Edo period.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から学ぶ①—太田素子『子宝と子返し』—

第3回：『小児必用養育草』を読む①—慈幼の誕生—

第4回：『小児必用養育草』を読む②—出産とケガレ—

第5回：『小児必用養育草』を読む③—生育儀礼の諸相—

第6回：『小児必用養育草』を読む④—幼児と病—

第7回：『小児必用養育草』を読む⑤—幼児と学び—

第8回：先行研究から学ぶ②—新村拓『老いと看取りの社会史』—

第9回：『老人必用養草』を読む①—孝行の論理—

第10回：『老人必用養草』を読む②—老人の年齢—

第11回：『老人必用養草』を読む③—養生のすすめ—

第12回：『老人必用養草』を読む④—老人と肉食—

第13回：『老人必用養草』を読む⑤—老人と病—

第14回：先行研究から学ぶ③—フィリップ・アリエス『〈子供〉の誕生』—

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、平常授業への参加度 30%、小レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

参考書：『子宝と子返し』（太田素子、藤原書店）、『老いと看取りの社会史』（新村拓、法政大学出版局）、『〈子供〉の誕生』（フィリップ・アリエス、みすず書房）

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前に読んでおくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史各論／ History of Japanese Philosophy (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：原 克昭

コード：LB98804 科目ナンバリング：LHM-PHI301J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世の思想・宗教・文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese Thought, Religion, Culture in the Medieval Ages
3. 授業の目的と概要：中世という時代層を基調として、日本の思想・宗教・文化に関する特論テーマを設定し、その諸相と展開を探究するとともに、ひろく前近代／近現代をめぐる時代的位相差をさぐりあててゆきたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Based on the Medieval Ages, take up various themes related to Japanese Thought, Religion, Culture, explore their aspects and developments, and examine the historical phase differences surrounding Pre-Modern / Modern Times.
5. 学習の到達目標：  
日本中世の思想・宗教・文化に対する理解を広げるとともに、諸テーマに関する文献資料の読解力の発展と時代ごとの位相差を見極める学術的視座の獲得をめざす。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Expand understanding of Japanese Thought, Religion, Culture, and aim to improve reading comprehension and acquire an academic perspective that the historical phase differences of each times.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
第1回：開講ガイダンスー日本中世思想史の射程  
第2回：スタートアップー思想史的基盤の確認  
第3回：信仰の思想史（1）ー平安時代の日常と占術学  
第4回：信仰の思想史（2）ー戦国時代の生命と術数学  
第5回：宗教の思想史（1）ー日本化した仏教的世界観  
第6回：宗教の思想史（2）ー異界・怨霊・魔道の世界  
第7回：宗教の思想史（3）ー神仏習合の理論と実践  
第8回：宗教の思想史（4）ー神仏習合の図像学  
第9回：文化の思想史（1）ー未来記の思想と構造  
第10回：文化の思想史（2）ー未来記解読  
第11回：文化の思想史（3）ー夢の位相  
第12回：文化の思想史（4）ー夢の叙述  
第13回：論争の思想史（1）ー宗派間の論義  
第14回：論争の思想史（2）ー異宗教との邂逅  
第15回：総括ー日本中世思想史の可能性
8. 成績評価方法：  
最終レポート [50%]・平常点（受講シート） [50%]
9. 教科書および参考書：  
教科書：各講ごとに授業プリント・受講シートを配布する。  
参考書：くわしくは各テーマごとに紹介する。  
・『日本思想史事典』（丸善出版、2020年）  
・末木文美士『日本思想史』（岩波新書、2020年）  
・末木文美士『日本思想史の射程』（敬文舎、2017年）  
・苅部直『日本思想史への道案内』（NTT出版、2017年）
10. 授業時間外学習：授業プリントを活用した「受講シート」作成（理解の定着・思考の深化）  
参考文献を活用した「最終レポート」作成（研究方策の修得・論理的文章化）
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍

コード：LB53302 科目ナンバリング：LHM-PHI308J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As a preparatory step to preparing a graduation thesis, students will present their typical research and major historical materials on the topics they are interested in. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

卒業論文のテーマの決定

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Determining the thesis theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

8. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ペリカン社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは 1 週間前、本レジュメは 1 日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔 片岡 龍

コード：LB63302 科目ナンバリング：LHM-PHI308J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the report from the previous semester, each participant of the exercise will announce subsequent research results based on the reading of historical materials, and will discuss the contents. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：

卒業論文作成の準備と研究内容の深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Preparation of graduation thesis and deepening of research contents

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

レポート [80%] 出席 [20%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ペリカン社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメ・中間レジュメは1週間前、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：